

令和 7 年 第 1 回  
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和7年1月31日（金）

開会午後2時00分、閉会午後2時25分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番 大西 ゆかり

2番 松岡 理

3番 坪池 宏

4番 黒田 卓

5番 牧田 和樹

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

理事・教育次長

水落 仁

教育次長・教育みらい室長

中崎 健志

教育次長

小杉 健

参事・教育企画課長

板倉 由美子

教育参事・教育みらい室小中学校課長

山尾 佳充

教育みらい室県立高校課長

土肥 恵一

教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

教職員課長

安川 賢一

保健体育課長

五島 直樹

教育企画課課長（高校跡地活用・学校施設担当）

中家 立雄

教育企画課課長（ICT教育推進担当）

小林 匠

教育みらい室課長（県立高校改革推進担当）

嶋谷 克司

教育みらい室課長（児童生徒支援担当）

富川 展行

生涯学習・文化財室次長・課長（振興担当）

前川 秋人

保健体育課課長（食育安全担当）

松嶋 保子

生涯学習・文化財室主幹（文化財担当）

池田 恵子

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後2時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和6年12月27日開催の令和6年第13回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

(1) 令和6年能登半島地震に係る復旧・復興の取組み状況（県教委所管分）

教育企画課長から説明した。

(2) 「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（素案）について

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明した。

3 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

#### 4 議事

##### ○報告事項(2)関係

〔牧田委員〕

・総合教育会議で見ていたが抜けていたところが1点あり、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・グラデュエーションポリシーの3つのポリシーを作っていくことが前提だが、アドミッションポリシーの中で、入試のやり方も今までとは違った形になっていくことが素案には現れていない。ずっと議論はしていたので、それはどこかのタイミングで素案の中に入れておくことが大切だと思う。

〔教育長〕

・今の牧田委員からの話はワークショップの中でも出てきた。実際には最後のページの5. 活力ある学校・組織づくりのいわゆるソフトの見直しのイメージになるかと思うが、こちらに書き加えるような形で検討していかなければならないというふうに思っている。

〔牧田委員〕

・人材と教員の働き方改革と、もう一つの柱は入試、カリキュラムに関するシステムだと思う。

##### ○報告事項(1)関係

〔黒田委員〕

・体育館の空調の話だが今回の予算のところでは空調のランニングコストは含まれていないのではないと思う。費用は今回の予算の中にあると思うのだが、特に体育館の空調の場合はランニングコストがばかにならない。今回の能登半島地震も1月だったし、夏場に起きるかもしれない。夏は体育館がとても暑くなっている。そういうことを考えると避難所として使うときに空調は必要だと思うが、夏の暑さはすごい状況になっているので授業でも使えるようにしていただきたい。ただその時にランニングコストを考えるとかなり大変だと思う。すでに導入されている先行事例とかがあれば、ある程度予算立てがしやすくなると思うので、せっかく設置されるのであれば、使えるように配慮してもらいたい。

〔教育長〕

・国の補正予算は義務教育が対象だ。国の当初予算全般そうだが、基本的には市町村立小中学校が対象で、一般の補正は通常1/3補助のところ、少しでも前に進めようということで1/2にかさ上げになって、市町村についてはそれを活用するということだ。残念ながら県立高校の方はハードについては自前でやるということだ。委員から助言のあった運営費の交付は国からという状況ではないので、地方財政措置、交付税での学校運営費の措置部分と税で賄うということ。そういった面でも財源の持ち方とかが大切になってくる。非常時の話もあるが、効率性も含めて検討を進めていかなければならない。

〔坪池委員〕

・地震の際に地域の人が避難所に詰めていくが、小学校とか中学校というのは職員が比較的近くに住んでいるので開けやすいが、県立学校の場合はかなり広範囲から来ているので限界があるということ、地域の人に周知しておくことも大事なのではないかと思う。高岡の場合は自治会長がほとんど結ネットを使っている、そういうところへ情報発信して、まだ開かないとか、場合によってはガラスを割って入ってくださいとか、そういうことができれば良いと思う。

〔教育企画課課長(高校跡地活用・学校施設担当)〕

・避難所の件だが、確かに1月の地震の時はガラスを割って中に入った方もいた。それについては、現在市町村ごとに避難所の開設計画を作っていて、市町村によっては振動で自動的に校舎の鍵箱が開くようになっているなど様々な工夫をしている。県立学校も市町村の方針に則って協力して参りたい。

〔大西委員〕

・令和6年能登半島地震に係る復旧・復興の取組み状況の報告の中の児童生徒の心のケアの取り組みで、年2回開催のSC・SSW合同研修会として8月に「SOSの出し方教育」の推進、県作成の事例集「SOSの見つけ方・受け止め方」を活用した研修会を実施されている。今週、小中高校生の自殺が最多だったという報

道があった。地震にかかわらず子ども達のSOSを引き出しやすくしたり、あるいは教員が見つかる力を高めたりするというのを研修で学ぶ機会を作っていただけた。富山県内は自殺した児童生徒はいないのではないか。新聞には富山県は全体の人数しか書いてなくて、子どもはどうだったかというのは書いてなかった。子育ての途中で悩みがある保護者の方の話の聞いたりしたところ、力がない人は相談に行く力もなかったり、支援の手続きをするために手続き場所までついていかなくてはいけないというような支援が必要な保護者の方もいた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの方にそういうことも研修の中に入れていただきたいし、保護者にもSOSの見つけ方や受け止め方を学ぶ機会があればいいのではないかと思った。

〔教育みらい室課長（児童生徒支援担当）〕

・「SOSの出し方教育」は生徒向けに各学校でおこなっているが、令和5年12月に「SOSの見つけ方・受け止め方」ということで教員用に研修用資料を作成した。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの方からも、こういうものがあるならぜひ共有したいという声があり、8月の合同研修会で使ったところだ。今、大西委員が仰ったとおり、保護者にも伝えたいということで、小学生、中学生、高校生の入学時にそれぞれ保護者用の資料を作成しているのだが、来年度の資料の中にこのSOSの受け止め方に触れたページを作っているところだ。今後も教員だけではなく社会全体で子供のSOSが拾えるよう、周知をしていくのが課題だと思っている。

〔大西委員〕

・悩んでいる保護者の方は孤立している方も多くいらっしゃるので、そういう方への対応についてご配慮いただきたい。

午後2時25分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。